

講義名	消費文化論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	森脇 丈子		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 5時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 /		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>資本主義の発展は、私たちに「豊か」で「便利」な生活をもたらしました。ものを所有するだけの「豊かさ」を超えて、余暇の有意義な使い方や精神的なゆとりを持ち、現代の「豊かさ」とは何かといった面に高い関心が寄せられています。その一方で、便利はなすの情報が多すぎることによって疲れてしまう人がいたり、生活が便利になりすぎることによる疑問を感じる人がいたり、環境破壊に関する国際的議論が活発になったりもしています。</p> <p>この授業では、現代の生活の仕方がどのように経済されてきたのかについて学びながら、私たちの生活のあり方の特徴ならびに問題点や課題がどこにあるか、生活の「豊かさ」や「便利さ」とは何かについて考えていきます。</p>			

到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>消費社会の基礎である大量生産・大量消費・大量廃棄の仕組みを理解します。</li> <li>社会の発展のなかで、消費文化がどのようにみ出されるかについて理解します。</li> <li>「便利な生活」がもたらす正と負の側面について考えます。</li> <li>「賢い消費者」とは何かについて考えます。</li> </ol>			

提出課題			
<p>授業の後半に課題を出します。 課題は、その日の授業内容に関連するものです。 授業の内容のまとめや自分の考えを記入して提出してもらいます。</p>			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<p>「提出課題」に関して、授業中にコメントをします。</p>			

評価の基準			
<p>「小テスト」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>回数： 1回</li> <li>点数： 40点</li> </ul> <p>「課題」の提出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>回数： 15回</li> <li>点数： 4点/回 （15回分×4点=60点）</li> </ul> <p>「小テスト」と「課題」の合計点で、評価をします。 合計60点以上が、合格です。</p>			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>毎回の授業で学生に質問を出します。発言に参加できるようにしてください。</p> <p>新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や企業活動などに関する情報を日々収集しておいてください。</p> <p>第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業中の約束事をしっかりと理解したうえで、受講してください。</p> <p>教室での通常の授業では、私語やスマホの利用は禁止します。受講態度の悪い人には退席を求めることがあります。</p> <p>関連科目として、「消費者問題論」、「アミューズメント事業論」、「生活構造論」、「NPO論」、「経済学入門」の受講を勧めます。</p>			

教科書	
<p>・「使用しない」。</p>	

プリント資料及び参考文献	
<p>教室で行う通常の授業では、出席者に、プリント、新聞記事を適宜配布します。 遠隔授業では、Ayuka Portalの「講義連絡」の機能を使って、プリントを提供します。</p> <p>・新潮社、竹村民部『大正文化 帝国のユートピア』2004年、三元社 ・山田登世子『贅沢の条件』2009年、岩波新書。 ・伏木亨『人間は脳で食べている』、2005年、ちくま新書。</p>	

授業計画	
1	授業の内容紹介と授業の進め方について、「消費社会」の便利さについて考える
2	資本主義の発展と商品生活領域のひろがり
3	資本主義の発展と生活の「豊かさ」
4	小売業の発達と生活様式の変化：19世紀のアメリカ社会を例に
5	小売業の発達と生活様式の変化：20世紀のアメリカ社会を例に
6	世界初の百貨店ボン・マルシェの登場(1)：売り方の改革、消費者層の広が
7	世界初の百貨店ボン・マルシェの登場(2)：社員教育
8	日本の百貨店の登場と消費階層の広が
9	大正時代の神戸経済の発展と消費文化
10	日本における戦後の生活の変遷(1)：農村型から都市型社会へ、生活の「豊かさ」
11	日本における戦後の生活の変遷(2)：余暇社会、消費の多様化、「贅沢」
12	高度経済成長期の「便利な」生活と消費の変化
13	広告の役割と企業活動
14	消費社会の諸問題：大量廃棄システムと環境問題
15	まとめ

到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> <li>消費社会の基礎である大量生産・大量消費・大量廃棄の仕組みを理解します。</li> <li>社会の発展のなかで、消費文化がどのようにみ出されるかについて理解します。</li> <li>「便利な生活」がもたらす正と負の側面について考えます。</li> <li>「賢い消費者」とは何かについて考えます。</li> </ol>	

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア	PBL（課題解決型学習）
イ	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ	ディスカッション、ディベート
エ	グループワーク
オ	プレゼンテーション
カ	実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
<p>・毎回の講義終了時に、次回の範囲とそれに関連する予習項目を提示します。新聞やニュースなどを使って情報収集に努め、次週の授業での質問により多く答えられるよう準備してください（作業時間：2時間程度）</p> <p>・その日の授業で扱った内容を基にして、次週の授業開始時に復習問題を提示します。授業で使用したプリントを用いて、基礎的な内容の復習をしてください。また、配布した新聞記事などを利用して、具体的な事例で授業内容をより深く理解できるように努めてください（作業時間：2時間程度）</p>	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
<p>インターネットを使った遠隔授業方式での発言、もしくは、チャット機能を使って意見を述べてもらいます。</p>	

実務経験の有無及び活用	
<p></p>	

備考	
<p>第1回目の授業ガイダンスをしっかりと聞いて、授業の進め方・評価方法を理解してください。</p> <p>通常の教室での授業では、基本的にスマホは利用しません。教員の指示があったときのみ、スマホを使用してください。教室への勝手な出入りは禁止します。授業態度の悪い人には退席を求めることがあります。</p>	